

中村隆幸委員長の開会挨拶

総力を結集して前進

大会にご参加いただきまし
た仲間のみなさん、おはよう
ございます。東京土建第74回
定期大会の開会にあたりまし
てご挨拶を申し上げます。

さて日頃は組合の諸運動へ
のご理解、ご協力と奮闘に
心より感謝を申し上げます。
この1年間は新型コロナウイルス
ルス感染への恐怖と戦後最大
の経済危機という混乱の1年



中村隆幸中央執行委員長

でした。とくにこの間、建設
現場では感染リスクを訴える
声が組合に数多く寄せられま
した。反面、休工になれば即
収入減につながる現場従事者
にとって、PCR検査と休業
補償こそ最大の感染予防で
あることも明らかになりました。
た。どのように仲間の命と任
事、そして暮らしが守れるか
を最重点に捉え、建設アクシ
ョン2020を早々に立ち上
げ、仲間の窮状に添えてまい
りました。春、秋の月間をは
じめ仲間の声に寄り添い、聞
き取りと相談を行なってきた
ました。そしてこれら多くの仲
間の要求を自治体要請行動と
して全支部で取り組み、運動
成果を仲間へ還していきなが
ら、困難な時こそ組合の出番
と、仲間とのつながりを拡大
月間でも活かしてきました。

アスベスト訴訟では昨年末
に最高裁は東京第一陣訴訟の
上告の不受理を決定しまし
た。合わせて本年2月25日に
弁論が行なわれました。一人
親方を含み、国に対してはほ
ぼ全面勝利と言えらる内容で
す。また建材メーカーの責任
についても高裁判決では否定

統一と団結へ 正しい判断を

このコロナ禍の中で、組織
分裂の危機に陥れる行動、行
為が本部役員を中心に行なわ
れ、その活動が明らかになり
ました。残念ながら副委員長
の一人を先頭に常任中執3人

新中央執行委員会

- 〈中央執行委員長〉 中村 隆幸(杉並)
- 〈中央副委員長〉 石村 英明(府中国立)
- 佐藤 豊(目黒)
- 松本 久人(江戸川)
- 渡辺 義久(三鷹武蔵野)
- 丸山 篤義(多摩・稲城)
- 石川 信一(北)
- 〈書記長〉 小番 徹(北)
- 〈書記次長〉 中宿 稔(三鷹武蔵野)
- 中原 收(小平東村山)

- 木村 潮人(江戸川)
- 北川 誠太郎(世田谷)
- 熊切 健二(杉並)
- 〈常任中央執行委員〉
- 齋藤 誠(台東)
- 榎山 剛志(多摩西部)
- 福地 孝志(板橋)
- 小坂 剛(西東京)
- 千葉 一郎(目黒)
- 大木 栄一(江東)
- 川口 敏彦(調布)
- 佐藤 里志(渋谷)
- 上原 誠(練馬)
- 後藤 英雄(葛飾)
- 五本木 宏晃(西多摩)
- 〈専従常任中央執行委員〉
- 三木 勉(多摩西部)
- 田村 彰宏(世田谷)
- 山本 高明(中野)
- 黒木 強(多摩・稲城)
- 中村 修一(足立)
- 茂呂 裕一(江東)
- 沼口 剛(渋谷)
- 唐澤 一喜(練馬)
- 栗橋 宏(墨田)
- 〈中央執行委員〉
- 真木 泰久(足立)
- 津田 宗久(荒川)
- 及川 光太郎(葛飾)
- 奥村 歳久(文京)
- 寺山 邦裕(台東)
- 富樫 康弘(江東)
- 遠藤 喜世志(江戸川)
- 野崎 邦治(板橋)
- 土橋 弘典(豊島)
- 渡辺 勝二(北)
- 福岡 忠行(練馬)
- 出井 章史(港)
- 小林 紀久夫(品川)
- 井澤 典一(大田)
- 佐藤 忍(目黒)
- 伊藤 勝伸(渋谷)
- 秋元 正真(世田谷)
- 伊藤 賢司(新宿)
- 阿部 秀晴(中野)
- 鎗田 登美雄(杉並)
- 島村 新(三鷹武蔵野)
- 宗像 勇(狛江)
- 佐藤 眞理子(調布)
- 清水 政廣(多摩西部)
- 宮崎 透(西多摩)
- 宮淵 勝也(小金井国分寺)
- 宮澤 和也(府中国立)
- 矢吹 一幸(八王子)
- 高木 一(日野)
- 三橋 誠(多摩・稲城)
- 尾花 慎司(町田)
- 井上 清一(小平東村山)
- 前川 達夫(清瀬久留米)
- 島崎 慶一(西東京)
- 相山 昇司(村山大和)
- *青年部より1人
- 栄 大翔(調布)
- *書記、ブロックより1人
- 姫路 直樹(東部B)
- 出雲 洋行(江東B)
- 池田 直隆(城北B)
- 安藤 信也(南部B)
- 角谷 美樹(西部B)
- 山本 晃(多摩東B)
- 大房 孝朗(多摩西B)
- 鈴木 寛次(多摩南B)
- 奥田 八志(多摩北B)
- 〈常任中央執行委員待遇〉
- 中村 哲郎(西東京)
- 松広 高幸(練馬)
- 山本 繁樹(江東)
- 佐藤 広平(豊島)
- 塩野 操(大田)
- 〈中央執行委員待遇〉
- 岡村 恭代(北)
- 鶴澤 文昭(江東)
- 〈会計監査〉
- 柴崎 憲一(西東京)
- 花岡 康雄(江東)
- 山口 君彦(中野)

大会宣言

東京土建一般労働組合第74回定期大会は、新型コ
ロナウイルスの感染拡大によって、2度の緊急事態宣
言が発令され、経済活動が大きく制限されるなかで
の1年間の運動到達を確認し、総括を行ないました。

コロナ禍で明らかとなった社会と経済政策の破たん
は、この間、政府がすすめてきた大企業・財界向け
の施策が、貧困と格差をよりいっそう加速させました。
また、コロナ患者をいち早く受け入れてきた公立病
院などの独立法人化をすすめることは私たち国民に
背を向けるものです。そうしたなか、建設業に従事
する組合員からは「仕事が中止、延期になった」、「大
手現場では密集状態の悪条件で働いている」など本
支部に相談が多数寄せられました。

東京土建は首都圏の仲間とともに、「誰ひとり取り
残さない建設アクション」を展開し、1万1千件を超
える仲間の実情に寄り添う相談活動を行なうと共に、
組織的な重要課題として運動をすすめる、仲間の実情
と声を国・自治体などの要請行動に全支部で取り組
み、建設労働組合として大きな役割を担ってきました。

一昨年の消費税率引き上げと新型コロナ感染拡大
による経済への影響は大きく、恣意的に経済動向を
判断して増税した政府の責任は重く、コロナ禍の対
策とコロナ収束後の国の責任による経済対策は、まっ
たなしの国民要求です。

平和の課題でも大きく動いた年であり、核兵器禁
止条約の発効、米国大統領の交代による米口の新戦
略兵器削減条約(新START)延長など、世界は核
兵器の廃絶に向けて動いているなか、唯一の被爆国
である日本は、禁止条約に批准していません。横田・
沖縄の基地問題と結実させ、平和運動を強化してい
きます。また、東日本大震災から10年が経過した今
でも被災地の復興・福島第一原発の処理は終わって
おらず、復興支援と脱原発の運動を、本支部ですす
めていきます。

建設アスベスト訴訟では、12年の闘いのなかで、
最高裁判決により国・石綿建材製造企業の責任が確
定しました。引き続き、被災者救済のための基金創
設に向けて全力を尽くします。

今年は、7月の東京都議会議員選挙、衆院解散・
総選挙は、遅くとも任期満了となる10月までに行な
われます。社会保障と税制の課題、仕事と暮らし、
そして平和と民主主義を守る国民課題と要求実現に
向けた選挙としていくために、世論構築と運動をす
すめていきます。

第74回定期大会では、新型コロナ感染が爆発的に
再拡大し、収束の見えないコロナ禍と経済悪化、そ
して建設不況を見据えた今年度の重点課題を明らか
にしました。方針では、組織拡大強化を根幹に据え
た建設アクション運動の継続と発展を図ります。コ
ロナ禍で浮き彫りとなった貧困と格差、差別のなか、
私たちの仕事と生活を脅かす税と社会保障大改悪を
阻止する運動と、憲法と平和、そして民主主義を守
り活かす運動に全力を挙げる決意を固め、すすめて
いきます。

今大会のスローガン「建設労働組合の統一と団結
を固め、社会の矛盾と分断に抗し、働くものが報わ
れる社会をめざした大衆の大運動と組織の多数派形
成をめざそう」のもと、今後の中長期的な東京土建
の運動と組織づくりのための「4つの視点」と「7つ
の運動課題」の検討と実践をすすめていきます。

東京土建は方針を結集軸として団結し、団結と仲
間の結集を力に、この間の建設アクション運動を確
信に、組織課題では不退転の覚悟を持って組織減少
に歯止めをかけ1%増勢をめざします。そのなかで、
仲間の仕事と暮らし、社会保障拡充をすすめる、建設
産業の民主化の課題と国民的要求をかかげ、実現に
向けて奮闘していくことをここに宣言します。

2021年3月14日

東京土建一般労働組合 第74回定期大会

*任務分担任は次号掲載予定